復旧・復興　蘇る いばらきの港

東日本大震災から1年、茨城県内の茨城・鹿島両港は、復旧から復興に向けて動きだした。今春、ガントリークレーンが再稼働。震災後、止まっていた韓国・中国への定期航路がいよいよ再開する。さらに港と高速道路を結ぶ県道の新たな整備や、水深10㍍を超える耐震岸壁の新設によって大型船の就航が可能になるなど使い勝手は、震災前に比べて向上する。復旧・復興から進化へ。首都圏の物流を担う、いばらきの港の存在感は、ますます高まる。

震災1年、「今」と「これから」

クレーン再稼働　定期航路も再開

セミナーで港湾の復旧状況などを説明する佐々木氏

復旧作業が進む常陸那珂港区のガントリークレーン

茨城県はいばらきの港湾の利用促進のために今年2月、宇都宮市で「いばらきの港北関東セミナー」を開催した。昨年3月に全線開通した北関東自動車道沿線の栃木県内の荷主企業に加え、物流、船会社など約70社・機関、約120人が集まった。県土木部の佐々木宏港湾振興監が震災の被害と復旧状況や、今後の見通しについて説明。常陸那珂と鹿島のガントリークレーンの供用再開の見通しについて触れた。鹿島港（茨城県鹿嶋市・神栖市）の北公共埠頭地区で1基、茨城港常陸那珂港区（茨城県東海村・ひたちなか市）の北埠頭地区で2基が相次いで再稼働する。震災後、応急措置としてクローラー（無限軌道式）クレーンで荷役対応してきた。ガントリークレーン再稼働によって、貨物重量や荷役速度が格段に増し、コンテナ利用の荷主にとっても利便性が向上する。

佐々木港湾振興監の説明後、同セミナーで登壇した、韓国・南星海運の総代理店、南星海運ジャパン（東京都千代田区）は、ガントリークレーンの再稼働を待って、韓国・中国を結ぶ定期コンテナ航路のうち、常陸那珂港へは4月末をめどに、鹿島港へは鹿島コンビナートの5―6月の定期修理を待って、早ければ7月にも寄港を再開する方針を示した。

国や県は、港湾の復旧と同時に、利便性を高める整備も進めている。

常陸那珂港区では北関東自動車道のひたちなかインターチェンジから有料道路を通って同港区に直結する片側2車線の県道常陸那珂港山方線が今年秋にも開通する。栃木県、群馬県から埠頭用地へのアクセスが格段に向上する。また、中央埠頭地区に水深12㍍の耐震岸壁が建設されることが国の12年度予算案で直轄事業として新規採択されており、完成すれば大型ロールオン・ロールオフ貨物船（RORO船）の寄港も期待できる。

鹿島タンクターミナルが建設中の共同備蓄タンク

輸送関連各社もサービス向上へ

海上輸送を担う船社や港湾荷役業者のいばらきの港への期待は高い。

OOCLジャパン（東京都品川区）は「京浜港への一極集中化を解消するため、茨城県にある港湾がゲートウェイになる」（森下真セールスエグゼクティブ）とする。また、川崎近海汽船（同千代田区）も「荷主の経済性や時間短縮につながるほか、東京港の混雑緩和につながる」（馬場信行日立支店長）として、茨城県が茨城港を北の玄関口、鹿島港を東の玄関口として進める「首都圏NEWゲートウェイ」構想を後押しする考えだ。

利用促進のためのサービス向上にも余念はない。鈴与海運（静岡市）は、11年8月に不定期運航を始めた鹿島―四日市を今月から定期的に運航数を増やす。鹿島コンビナートから四日市のコンビナートに原料を月2回程度輸送する。港湾荷役業などを手がける日立埠頭（茨城県日立市）は、運ぶのが難しいと言われる建設機械などを多く扱っている。今後もサービスの向上を目指して、運ぶ技の訓練を欠かさない。

被災して復旧中のいばらきの港だが、潜在需要は高い。茨城県古河市にまずトラック部品の梱包工場を5月にも稼働させる日野自動車や、14年内に阿見町に乳製品の一貫生産工場を完成予定の雪印メグミルクでは、今後、港湾整備が進めば利用を検討したいという声が聞かれる。また、北越紀州製紙は、コスト削減策として、新潟工場（新潟市）で製造した製品をトラック輸送で常陸那珂港区へ持ち込み、九州地方に輸送している。震災前に比べ頻度は減ったが、現在でも継続的に利用している。

◇

茨城県では国の12年度の予算案に盛り込まれた宮城県・栃木県との3県で、総額140億円の「産業復興企業立地補助金」のほか、税制面の優遇で企業誘致と雇用確保が図れる「茨城産業再生特区」も活用し、港湾利用を加速させたい方針だ。

鹿島港では、住友金属工業鹿島製鉄所（鹿嶋市）の東に位置する外港地区には、水深14㍍の耐震岸壁を建設中で、13年3月の利用を目指している。

また物流業の丸全昭和運輸（横浜市）は、鹿島コンビナートに立地する中堅化学4社と共同出資して、界面活性剤の生産に使う東南アジアからの高級アルコールや石化副原料を備蓄できる共同タンク基地を今年10月に稼働させる動きもある。水深9・3㍍の耐震岸壁も建設中で、完成すれば商社や後背地に立地する化学メーカーの利用が見込まれる。「高級アルコールを陸送ではなく海上輸送することで、物流コストの削減につながる」（同社鹿島支店）という。

インタビュー

コマツ　茨城工場―ひたちなか市に立地の理由

港に近く 出荷に利点

執行役員 生産本部茨城工場長
小川　啓之氏

―2007年1月に栃木県の真岡工場の分工場として設立しました。ひたちなか市の工業用地に立地した理由は。

「港に近いことが一番だ。大型ダンプトラックなどを3・5キロメートル先の埠頭まで自走し、そのまま出荷できる。従来は一度組んだ車両を分解し、港の埠頭用地や顧客先に運び込んで再度組み立てる必要があった。これがなくなり、リードタイムの短縮や二酸化炭素の排出削減にもつながっている」

―生産・出荷状況は。

「昨年3月22日から再稼働し、4月11日にはフル稼働した。同月25日からは早期復旧した岸壁のおかげで、インドネシア向けを出荷できた。当工場では、外航船と内航船を合わせて出荷の約90％を常陸那珂港区から出荷している。3、4月の利用率は6割程度に落ち込んだが、現在はほぼ震災前と同じだ」

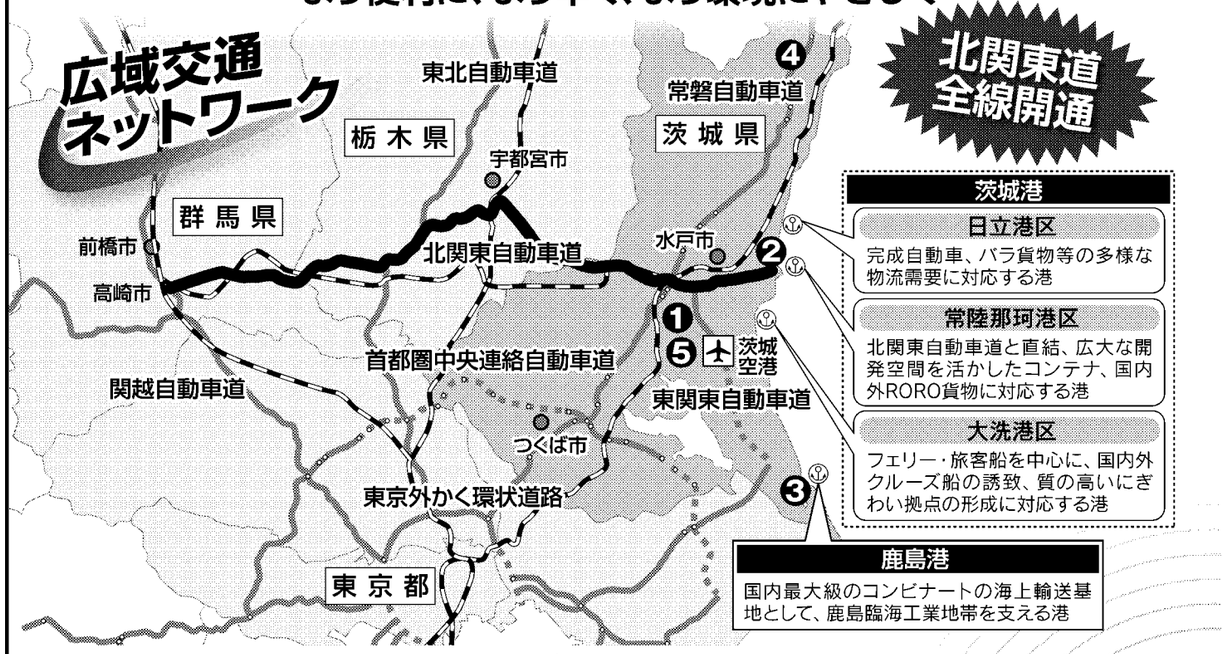
―昨年の北関東自動車道の全線開通に加え、近く県道常陸那珂港山方線の開通やガントリークレーンの再稼働もあります。

「北関東道の開通で協力企業や小山工場（栃木県小山市）からコンポーネントを運ぶアクセスが格段に向上した。山方線が開通すれば、協力企業やお客さんの利便性も良くなる。ガントリークレーンは、ロシア向けで使用していたため、稼働後、同港区の利用率がさらに高まるだろう」

21世紀を担う“いばらきの港”

新たな物流拠点の提案

―より便利に、より早く、より環境にやさしく―



茨城県重要港湾の定期航路状況

			航路名	航路	
茨城港	日立港区 内貿1航路	内貿	北海道定期RORO航路	日立―釧路	デイリー運航
茨城港	常陸那珂港区 内貿4航路 外貿12航路 計16航路	内貿	北海道定期RORO航路	常陸那珂―苫小牧	週12便［日曜日を除く］
茨城港	常陸那珂港区	内貿	北九州定期RORO航路	常陸那珂―北九州	週2便
茨城港	常陸那珂港区	内貿	四国定期コンテナ航路	常陸那珂―松山	休止中
茨城港	常陸那珂港区	内貿	内航フィーダー航路	常陸那珂―鹿島―京浜(東南アジア航路等に接続)	週1便
茨城港	常陸那珂港区	外貿	北米定期コンテナ航路	北米西岸(バンクーバー・シアトル 等)―苫小牧―常陸那珂―博多―釜山(韓国)―大阪―名古屋―清水―東京―北米西岸(バンクーバー・シアトル 等)	一時休止中
茨城港	常陸那珂港区	外貿	韓国・中国定期コンテナ航路	常陸那珂―釜山―蔚山―光陽―上海―寧波―釜山―仙台―小名浜―常陸那珂	平成24年4月末 再開
茨城港	常陸那珂港区	外貿	北米定期RORO航路	常陸那珂―ロングビーチ―北米東岸	月1-2便
茨城港	常陸那珂港区	外貿	欧州定期RORO航路	常陸那珂―地中海・欧州	月2-3便
茨城港	常陸那珂港区	外貿	極東ロシア定期RORO航路	常陸那珂―横浜―釜山―ウラジオストック・ナホトカ	月1-2便
茨城港	常陸那珂港区	外貿	中国・東南アジア定期RORO航路	①常陸那珂―横浜―名古屋―神戸―馬山―仁川―天津―上海	休止中
茨城港	常陸那珂港区	外貿	中国・東南アジア定期RORO航路	②常陸那珂―横浜―名古屋―神戸―東播磨―馬山―上海―広州―レムチャバン―ジャカルタ	月1-2便
茨城港	常陸那珂港区	外貿	アフリカ定期RORO航路	常陸那珂―モザンビーク―ダーバン 等	休止中
茨城港	常陸那珂港区	外貿	南アメリカ定期RORO航路	常陸那珂―上海―サンアントニオ 等	月1-2便
茨城港	常陸那珂港区	外貿	東南アジア定期RORO航路	常陸那珂―マニラ―ポートケラン―レムチャバン―シンガポール―ジャカルタ	月2-3便
茨城港	常陸那珂港区	外貿	極東ロシア定期在来航路	ナホトカ―(門司/大阪/名古屋/横浜)―常陸那珂―ナホトカ	休止中
茨城港	常陸那珂港区	外貿	豪州定期在来航路	神戸―横浜―常陸那珂―ブリスベン―ポートケラン―メルボルン―アデレード―ダンピア―フレマントル	月1-2便
茨城港	常陸那珂港区	外貿	豪州定期RORO航路	常陸那珂―横浜―名古屋―神戸―水島―中関―苅田―ブリスベン―メルボルン 等	月1-2便
茨城港	大洗港区 内貿1航路	内貿	北海道定期フェリー航路	大洗―苫小牧	週12便
鹿島港	内貿1航路 外貿1航路 計2航路	内貿	内航フィーダー航路	常陸那珂―鹿島―京浜（東南アジア航路等に接続）	週1便
鹿島港	内貿1航路 外貿1航路 計2航路	外貿	韓国・中国定期コンテナ航路	常陸那珂―鹿島―釜山―蔚山―光陽―上海―寧波―釜山―仙台―小名浜―常陸那珂	休止中

お問い合わせ先　茨城県土木部港湾課港湾経営室　TEL.029-301-4536

ゆるがない"いばらき"の立地優位性

都心から30km～150kmと近接！

- 30haの大区画から1,500㎡の小区画まで揃える多様な業務用地
- 割安な地価（工業用地平均地価20,500円/㎡、神奈川の1/4、埼玉の半分以下）
- あらゆる企業活動を下支えする基盤技術産業と科学技術の集積
- 東日本と首都圏を結ぶ広域交通ネットワーク

News!　産業復興企業立地補助金　総額140億円！　☆補助率 1/4 以内（平成24年度 国予算額）

☆税制特例等を内容とする「茨城産業再生特区」も認定！

あらゆる産業にとって絶好のロケーション！

港湾機能を最大限活用できる工業団地

IBARAKI-CHUO
❶茨城中央工業団地（1期、2期、笠間地区）　茨城港常陸那珂港区と北関東道で接続！ I.C.内包。

HITACHI-NAKA
❷常陸那珂工業団地　茨城港と北関東道に直結！ 8年間、電力料金を最大で75%補助。

OKUNOYAHAMA
❸奥野谷浜工業団地　鹿島経済地区へようこそ！ 各種規制緩和と低廉なユーティリティ供給。

MINAMINAKAGO
❹南中郷工業団地　東北地方へのアクセスも良好！ 超格安！（分譲価格 7,000円台/㎡～）

IBARAKI
❺茨城工業団地　3本の高速道路、4つのI.C.を使用可能。国道6号にも至近。

お問い合わせ先　●茨城県産業立地推進東京本部　TEL.03-3243-0845　●茨城県開発公社　TEL.029-301-7005

他にも多様な工業団地をラインナップ!!　詳しくは、ネットで検索　いばらきの工業団地　検索